

## 大台ヶ原 その再生を願いながら歩く

9月28日、近鉄八木駅前8時15分発の特急バスは、途中川上村の湯盛温泉・杉の湯での休憩を挟んで11時15分大台ヶ原バス停に到着。

### 紅葉はまだまだ

車窓から眺めた山野も、山上の景色も「紅葉」には程遠い状態。風の涼しさだけが季節の移ろいを感じさせてくれる。

登山届けを出して、11:30 日出ヶ岳目指して歩き始める。

### 花が少ない登山道

うっそうとした森の中を緩やかに登ってゆく道の周囲には、びっしりとミヤコザサが生い茂っている。登山道を横切る

せせらぎ、倒木や岩を覆う深緑の苔、こうした光景は大台ヶ原らしいものだが、花を見かけないのはさびしい。



い。

### 涼風吹く日出ヶ岳山頂

やがて森を抜けて稜線に出た。左折して山頂に向かう。木製の階段は傾斜も急だが、段差の大きい個所があり、なかなかしんどい。

12:30 日出ヶ岳山頂着。標高 1694.6m、100 名山。2階建ての立派な展望台が建っており、吹きわたる涼風のなか、幾人かの登山者が思い思いに憩っている。

### 思い出深い三津河落山の山容

山頂からは四囲の山々が見渡せた。西側のすぐ手前に大きな山塊が横たわっている。三津河落(さんづこうち)山だ。吉野川、熊野川、宮川の3河川の分水地になっているがゆえの山名だ。



↑中央手前が三津河落山、遠くに大峰山脈が見える

### 絶景地だった三津河落

入山禁止になる前、この山には何回も登っている。高校同窓生登山でも登ったし、健全会友の会山歩きクラブの仲間たちとも歩いた。頂から西に向かって尾根が緩やかに高度を下げながら伸びており、その稜線に大和岳などの小ピークがアクセントをつけ、その先に大峰山脈↓カワチブシ(河内附子)トリカブト属、日本固有種、猛毒が大きく広がっていた。大蛇ヶ嶺(だいじゃぐら)と並ぶ大台ヶ原の絶景地だと私は思っていた。

### その絶景も皆伐の結果だったのだ

昭和 49(1974)年再版発行の「青垣の山々」では「三津河落から日本鼻にかけての北斜面は・・・原始林がすっかり伐採し尽くされ、無残な山肌が露出している」と筆者は嘆かれています。絶景は皆伐の結果だったのだ。なんとも皮肉である。





## ササ原に立つ枯れ木の群れ

日出ヶ岳から正木ヶ原に向かう。途中にある正木嶺までは木製の階段が続いている。階段の両脇には葉が少しばかり色づいたゴヨウツツジが並んでいる。

正木嶺を越えて下りにかかるるとツツジも姿を消し、一面のササ原に枯れ木の群れが白い木肌をむき出しにして立っている。“死屍累々”と表現したら言い過ぎだろうか。

## ↑正木ヶ嶺で続けられるネット張りの活動 営々と続けられる森林復活の努力

ここではボランティアの人々も含めて、多くの人たちが森林回復の活動をされていた。苗木を植え、それをフェンスで囲んでいるらしい。実に粘り強い大台ヶ原再生の努力なのだ。「ご苦労様」と頭を下げて通り過ぎる。

## 所々設けられている熊ベル

登山道の要所、要所に“熊ベル(写真右)”が置かれている。行き交う人のない所では、一人歩きゆえ、この鐘を鳴らしたが、よく響く音だった。

## 大蛇峠行きを断念

14:05 尾鷲辻に到着。帰りのバスの時刻を考えて、大蛇峠行きを断念。深い森の中の歩きやすい道をたどって15:05 駐車場に帰着。ビジターセンターを見学して、16:00 発バスで帰路についた。乗客は往きと同じ8人だけだった。名山大台ヶ原の自然の再生を願って歩いた山行だった。 **各所にある熊ベル→**



## 追悼 松尾治

私たちは何回か兄弟姉妹登山を行った。

数年前の10月、兄弟姉妹5人と長姉長女の6名が岐阜県新穂高温泉に集まり、わさび平小屋に一泊。翌



日小池新道をたどって標高2300mの鏡平山荘に泊まり、それぞれの体力に合わせて、2日間の山歩きを楽しんだ。

鏡平は槍・穂高連峰の好展望地。

弟・治は鏡池に映る槍ヶ岳を写すべく、夕刻、夜間(月光)、朝方と、何回も何回も挑戦していた。